

□私の意見

神戸税関新庁舎の完成にあたり、私の思い・期待

仁尾 徹（神戸税関長）



建替え工事で二年有余の間、何かとご不便をお掛けしておりました神戸税関本館庁舎が十一月二十六日竣工しました。

神戸税関旧本館庁舎は、昭和二年に竣工以来約七〇年、「神戸建築一〇〇選」にも数えられるなど、多くの人達に神戸のシンボルとして親しまれてきましたが、老朽化が進み庁舎の建替えが長年の懸案になっていました。

先の阪神・淡路大震災では倒壊は免れたものの大規模な改修が必要となり、隣接する昭和四〇年代建築の二つの分館庁舎が復旧困難であったことから、これらを立体的に一体整備することにより従来の懸案であった分散庁舎による事務非効率の解消を図ることとしました。

建替えに当たっては、旧本館庁舎は多くの市民の皆さんからの保存要望もあり、時計塔や外壁などはそのまま保存再利用することとし、歴史的景観に配慮しました。

また、古いものの有効利用を図る一方、OA時代への対応、耐震機能の整備、誘導ブロック及び身障者用トイレの設置など誰でもが利用しやすい庁舎として整備しました。これからも神戸港のシンボルとして多くの人達に親しまれるものになってほしいと思っています。

神戸港は日本を代表する国際貿易港。その発展の歴史は日本の経済・社会の発展、国際化と極めて密接な関係にあります。神戸税関の歴史も神戸港の発展の中で刻まれてきたといえます。

国際競争が激しい中、神戸港の真の復興・発展のためには、電子情報化の推進等ソフト面での充実が課題と思われれます。税関では通関情報処理システム(NACCS)の対象地域拡大や機能強化を順次進めるなど、より適正で迅速な税関業務の推進に努めてきていますが、来年秋更改予定のSer-NACCSは通関手続だけでなく外国貿易船の出入港、保税関係手続等をも網羅した総合的な通関システムです。港の総合力を高めるために関係業界の積極的な参加が期待されます。

STEP GLOBALLY STEP NATURALLY

地球を歩く

自然に歩く

STEP COMFORTABLY

快適に歩く



足に合ったヘルスシューズで快適



「健康な足を健康に保ち、傷んだ足をいたわることを基本理念に、株式会社アリスは、日本で初めてドイツの整形外科靴マイスターを招聘し、健康靴に関するトータルなサービスを提供しています。健康な足を健康に維持されたい方も、足に悩みをお持ちの方も、最新の整形外科水準に基づいて作られ、ドイツから直輸入の健康靴をぜひお試しください。」

株式会社アリス代表取締役 アリス・クリスチャンス

Japan's Premier Health-Shoe Specialist

高級健康靴と関連資材輸入・機材輸入



〒650-0012 神戸市中央区北長狭通

TEL:078-382-2101 FAX:078-3

営業時間:10:30a.m.~6:30p.m.年中無休

醉眼流旅日記

〈28〉

ムラマツ宴会の

歴史(五)

村松 友視 〈作家〉題字／筆者

カット／灘本唯人

「ムラマツ宴会」の産物のひとつが、私が中央公論社をやめるきっかけとなった「私、プロレスの味方です」だった。

糸井重里が「ムラマツ宴会」のメンパーとなってから、その席でプロレスが話題になることが多かった。クマさんこと篠原勝之も、新宿ゴールデン街のケンカで全勝一引分けという実績の御仁であり、当然、格闘技には興味を抱いていたから、積極的に参加した。クマさんは、いまや前田日明率いるところの「リングス」のベルト製造者でもあり、前田選手とも親しくつき合っているらしい。糸井重里もまた、「リングス」のテレビ放映における解説席にいるのを見たこともあり、格闘技には並々ならぬ思いを抱いているようだ。そういえば、「ムラマツ宴会」が始まった頃、糸井重里は極真カラテに通っていたことがあった。

そして、私はといえばその頃、三年ほどやっていた「寸止め」の空手をちよほどやめた時期だったから、格闘技に関する思い入れはかなり強かった。権名誠さんなどもプロレス会場によく顔を合わせたから、ケンカや格闘技と何らかのかたちで関わっていた者たちにとつて、プロレスが避けて通ることのできぬ世界として、クローズ・アップされていた時代と言つてよいだろう。

そういう傾向の中心には、やはりアントニオ猪木が打ち出した、「異種格闘技戦」という路線があったはずだ。ボクシングのモハメド・アリ、柔道のウイエルム・ルスカ、プロ空手のザ・モンスターマンといった選手と、アントニオ猪木とのからみはこれまでにない熱を格闘技ファンのあいだに生じさせた。プロレス・ファンと格闘技ファンには、大いなる溝があったのだが、アントニオ猪木の「異種格闘技戦」という路線は、その溝を埋める役割を果し、プロレスについての話題に陽の目を見させた……というのは今になってのまとめ方だが、とにかくあの頃そんなざわめきが起こっていたのはたしかだった。

でまあ、「ムラマツ宴会」でもいろいろとプロレスの話題が出た。そんなさなか、糸井重里に情報センター出版局からプロレスの本を出さないかという打診があった。その前に糸井重里が同社から出した、「情熱のペンギン



のだ。

だが、糸井重里はそろそろコピーライター界の寵児になり始めていて、そんな本を時間をかけて書いている暇がなかった。そこで糸井重里は、

「プロレスなら、ムラマツさんが面白いですよー」

と言った。そう言われても、ムラマツさんなんてどこの誰だか分からないのであり、情報センター出版局の人は、

「ムラマツさんって何なんですかあ」

と問い返した。

「あのね、中央公論のムラマツさんなんだけども、文芸雑誌の『海』の編集部の人なんだよねー」

「文芸誌の『海』の編集者……」

相手は、よけい分らなくなってしまうたと思うのだが、とにかく今をときめく糸井重里の言葉でもあり、とりあえずその「ムラマツさん」とやらに会って話を……ということになった、とまあ、ワタシは想像するのではありません。

何しろ、その頃はプロレスの本などプロレスラー自身かプロレス関係者しか書いておらず、有名人でもないままたくのド素人に書かせるなどというプランに、上司がうなずかずもいないのだ。しかしイトイさんの意見を無視するわけにも……というわけで、情報センター出版局の加田昇さんが会社に私をたずねて来た。これが、私が「プロレスの味方」となり、やがて中央公論をやめ、物書きとしての道をスタートさせるにいたる、発端ということになる。したがって、糸井重里の存在なくして、私は物書きの筋道へ入ることはなかったであろうという、きわめて私的な身の上話でありました。

（むらまつ・ともむ）一九四〇年東京生まれ。慶応義塾大学文学部卒。六三年中央公論社に入社。「小説中央公論」「婦人公論」「海」編集部長を経て、八一年退社。八二年「時代屋の女房」で直木賞受賞。主な著書は「私、プロレスの味方です」「アブサン物語」「トニー谷、さんす」「鎌倉のおばさん」など。





東京の赤坂東急ホテル内「花くま」で東山魁夷画伯と淀川長治さんの対談を。新開地で観た洋画の話はつきなかった。



映画発祥の記念碑を建てる会の発会式（神仙閣で）滝えり子さんと



メリケンパークのオープンに映画発祥の記念碑完成。開港130年



映画発祥の記念碑を設立するため、神戸国際会館で映画音楽祭を開く。淀川先生、内海重典先生（演出）を囲んだ出演者たち



新開地の活性化に淀川長治先生講演会を。2時間に8本の名画についてたっぷり。おしゃべり名人芸だった



浅井信雄さんと震災後、本誌最後の対談。全日空ホテルで（東京）

兵庫の大佛つあん再建に能福寺へ講演に。榎晴夫さんと握手

同時に「ライオン・マン」「灰色の幽霊」「赤手袋」これらの連続活劇が画面に映写されるや場内の拍手のすごさ。アンパンの紙ぶくろをふくらませて手でパチーンと叩くその声援。

ここは西部劇がとく。ハリリー・ケリー主演の西部劇「シャイアンのハリリー」これがシリーズのごとき常に「シャイアンのハリリー」として封切られ、神戸の映画ファンはこのハリリー・ケリーを「シャイエン・ハリリー」と呼んで愛したものだ。この西部劇の殆どがジョン・フォード監督若き日の作品であったのだ。

*

夏は扇風機もなし。しかも各館キユウギユウづめ。客の殆どキモノ。押しこまれたその客の一人が叫んだ。「わいのオビあらへん」。押しこまれユカタのオビほどけて落ちてしまったらしい。このサウナそのままの暑さで夏の神戸新開地は賑わった。

すべての客がキモノゆえ映画館の客の入れかえとなるや

ガラガラバタバタその下駄の音の賑わい。おもてのひと通りもゲタの音。洋服と靴はお役人か軍人か西洋人くらい。

*

各映画館の入口その切符を求める入口は銀のこうしになつて、そこの銀行の金の受け出しそのままの、そこには大理石の台ありてその大理石のまんながすりへつていゝ。それくらい客の入りが多かった。

*

錦座の向い側に「やつこ」。この天井のうまいこと。いつも超満員。キネマ倶楽部の前の横ろじに「ワラジ」。ここはセンベイそのままのうすい肉をフライにして皿からそれがはみだすので見つめるとワラジ。安いことで人気。もっぱらアンチャンのごひいき。もうひとつの横筋にはいると「湖月」。ここのしるこのうまさ。栗じるこ。ああうまい。

*

新開地は神戸のパラダイス。気どる人も、気どらぬ人も、

ここ新開地は神戸の山の手の富豪と神戸の下町のお客のすべてを楽しませてその楽しさむせかえるばかり。

この新開地いまは個性無くした。もつとモダンにもつと安っぽく。コール・コビーやアイズ・クリームをもつとシンカイチ・スタイルで工夫してはいかが。新開地はモダンであれ……新開地はもつと安っぽくなれ。中途はんばはいかん。

『98年5月号掲載』



中山岩太「新開地（夜景）」1939

年時代の聚楽館を始めとした映画館物語だった。

阪神・淡路大震災の時、いち早く郵便がとどいた。「見た！お見舞い申し上げます」と短文で。

司馬遼太郎先生や、田辺聖子先生の激励文は、一月二十五日には到着したが、淀川先生は一足遅かった。「書けなかったのよ」。ムリもない、あの美しかった神戸が崩壊する映像ばかり観ていたのだから……。

「二〇〇年映画祭」も、お呼びしたかったが「美しくない神戸」は観たくないが実感らしく、遂に復興し「よみ返った神戸」を観て頂けなかった。震災後、浅井信雄神戸外大教授と対談のため上京し、全日空ホテルでお目にかかったときは、ほんとに喜んで下さった。

「シンカイチ・ノスタルジイ」は、大好きな神戸への最後のメッセージだったと思う。

「神戸のこと手当り次第」では、神戸っ子氣質がしっかり淀川映画少年の手で描かれた。

オッチョコチョイでスカタンとか、一見ゼントルマンやけどバラケツとか、スマーとなくせに浪花節とか、なるほどなるほどと、うなずくおかし話ばかり。神戸三中の生徒達を、映画ご法度の頃、先生にこの映画はぜったい観せなアカンと三中の生徒全員で映画観賞をさせたり、聚楽館とアンナパブのバレエの美しさやチャップリンとの世紀の出会い、そして、日曜洋画劇

淀川長治
映画評論家

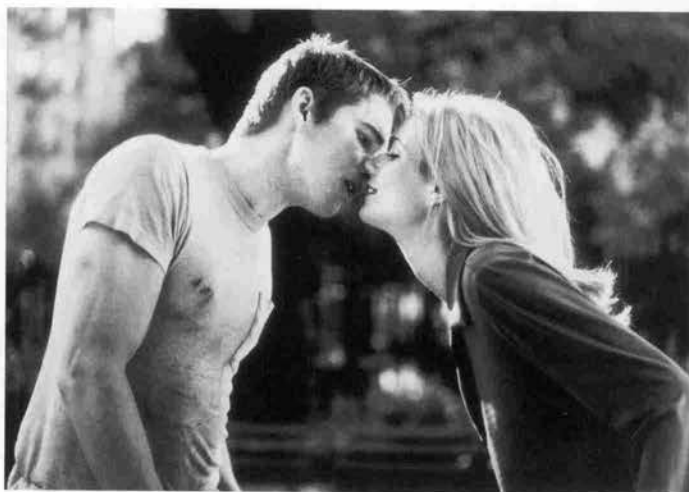


CINEMA 試写室

昨今・今日・映画散策

「遙かなる帰郷」 「大いなる遺産」

から五十二年前の一九四六年にデヴィッド・リーン監督で見た。ロナルド・ニーム撮影のモノクロ。ジョン・ミルズ、バレリー・ホブソン、アレック・ギネス、ジョン・シモンズらの出演。これを見たときはこのイギリスのクラシック



青年（イーサン・フォーク）は女（グウィネス・パルトロオ）に翻弄されるが…
（「大いなる遺産」）

「遙かなる帰郷」フランチェスコ・ロージ監督。ジョン・クトゥローロ主演。イタリア・フランス・ドイツ・スイス合作。一九九六年作。ナチがアウシュヴィッツから撤退。ユダヤ人たち解放。ここにひとりの男。故郷にかえるまでに…八ヶ月もかかってしまった。歩く、ただもう歩く。汽車に乗る。汽車途中で止まる。汽車いつ動くことか。また動く。走る。途中、レールが切断。またストップ。戦争はこの善良なユダヤ人を、ふるさとへ帰すのにこれだけの苦しみをあたえたのか。この監督。「シシリーの黒い霧」（一九六二）で私たちに初めてマフィアとは何かと教えてくれた。イタリアの国粋党がその熱をゆがんで燃やしてしまった。マフィアとはその国粋党のかしら文字を合せた記号。この監督の「メリヤス商人」（一九五九）ここに見たイタリアの田舎。村をめぐるって売りあるくイタリア商人。見ていて酔いしれた。ここにイタリアの（土）つちを嗅いだ。スペインの闘牛士をあつかった「真実の瞬間」（一九六四）のファースト・シーンこれが祭典の山車。四人の男の山車を曳く足の動き。山車の布から四人の男の足さきの動きだけが見える。前に三步。あとに二歩。このリズムを見てるとスペイン舞踏のオリジナルが、ここにわかってきた。この監督ことし七十六才のナポリ生れ。

「大いなる遺産」一九九七年作アメリカ映画。一時間五〇分。もちろんカラー。このディケンズのクラシック。いま

*

場で生れたあいさつ。さよならさよならさよなら。は、兵庫幼稚園の美しい先生が片手を握っていつも子供たちにいついていた言葉だったとか。このエッセイがきっかけで幼稚園時代の先生との再会もあつたりして、神戸、神戸、神戸とふるきよき時代の神戸が満喫できた連載だった。

私などは淀川先生の「映画の友」で戦後のハリウッド華やかな、監督やスターのインタビューに胸を躍らせた少女時代だった。本誌の「シネマ試写室」や「淀長映画館」を愛読して、淀川先生の推せん映画は必ず観るといふファンは多かつたようだ。

その中でも黒澤監督の「乱」は名文だった。映画批評の最高傑作。黒澤明の究極の映像美に打たれて描く姿が目には浮ぶよう…。九月に先だたれた黒澤監督の「後を追って行きますよ」といわれていたことは、ほんとの気持だったに違いない。

心に残る対談も多かつたが、一番、大騒動だったのは東山魁夷画伯との出会い。神戸二中と三中とで、どちらも映画少年。東京の赤坂東急ホテルにある「松道家」で録音したのだが、電池の残量が少なく収録した声が聞こえない。聞こえてくるのは私の高笑いばかりで青くなった。それにしても両先生スタスタとお付きもなお出ましになり、その気さくさにさすがが神戸っ子と感激したものだ。

映画九〇年が来年に迫るといふ一九八七年十二月一日に神港倶楽部あとに「映画大陸の記念碑」を創ろうと、募金第一号に淀



ディケンズの名作がアヴァンギャルドによりみえる (『大いなる遺産』)

に棒しばりとなった。ただもうディケンズのクラシックというクラシックだけでなく主人公の老女の悲しみが胸を刺した。ディケンズといえは「クリスマス・キャロル」を思い出し「オリバー」をも目に浮かべるが「大いなる遺産」は女の心の奥を指さきでさぐる映画であった。このクラシックをアメリカのおお手の二十世紀フォックスが映画にしたことでびつくりだ。見た。見て驚いた。この映画。前衛映画。あのひとところ流行のアヴァンギャルド・スタイル。ミッチイ・グレイザーの脚本がこの映画をバレエの舞台劇に変えた。監督のアルフォンソ・キユアロンはメキシコ人。キメラのエマヌエル・ルベスキもメキシコ人。このキメラマンの「雲の中で散歩」(一九九五)のあのやわらかな美しさ。監督と撮影この二人のメキシコ人の手でこの映画、グリーンとイエローと真紅の虹を見せた。この映画、流れてどどまらぬバレエの一時五分。見ているとニュ

ーヨークのメトロポリタン美術館に入ったムード。ストリーイは一人の老女が若き日、その結婚当日に相手の男が逃げてしまったその苦しみその悲しみその恨みが、この今年老けて老いさらばえた今も、男への恨みを恨みつけ、世の男たちが女で苦しむ悲しむその「失恋」を実現させては楽しむ老女(アン・バンクロフト)となった。この老女が男のエサに用意した女(グウィネス・パルトロオ)。このエサにひつかり苦しめぬ青年(イーサン・フォーク)これに共演がロバート・デ・ニーロ。彼の役は脱獄の男。少年(のちにこの映画の主役の男)が海で遊んでいると突如として波のなかから顔を出したその恐怖。少年に「俺の足のクサリを切り外してくれ」とすごい目でにらむ。この映画のすべり出しのこのシーンはいかにもイギリスの童話ふうの感じを見せたが、やがて映画はバレエ・スタイルをもって海を目前にひかえた老女のバケモノ屋敷とも申せる広大な荒れ果てた屋敷のひとつまで一大富豪の老女が今も果せなかつた恋に恨みをこめてシワで埋った顔。その唇に真赤なルーージュを塗るこの「奇跡の人」のアン・バンクロフトの捨て身の演技。二十世紀フォックスというお手のアメリカの映画会社が、この美術館で試写する三〇分くらいの実験美術作品を大胆にも製作したその勇氣。見つめているといまアメリカは「タイタニック」のオスカーにハズカシーと思つたか、かかるアヴァンギャルド・スタイルを二十世紀フォックスが配給し、いっぽうユニヴァーサルでは二時間四分かけてジョン・ランディス監督をもってダン・アークロイド主演「ブルース・ブラザース2000」(一九九八)のここに見えるアメリカのジャズ・スタイル。まさにダンスとジャズの火花のごとく、マルクス兄弟のムードと男版「四十二番街」。アメリカ映画はまだ死にやせんよ……とばかりここに自由の女神はそのささげる灯火に赤い灯と青い灯をピッカーと光らせてお見せした。

98年6月号掲載

川長治先生が一万円をポンと投げ入れて下さった。嶋田勝次先生の提案でメリケンパークの完成に、海洋博物館もオープンするので、海の見える記念碑はどうだとのおすすめで、環境Q(増田正和、小林隆一郎、山口牧生)のメンバーが制作にとりかかった。おむすびみたいな能勢の巨石に四角い穴をあけてスクリーンストーン。四十数個の石はスターストーンと名付けて一個五十万円で募金を開始。淀川先生は「チャップリンとバスターキートン」の石に百万円ご寄附いただいた。

神戸地下街の長島隆さんも神戸三中の後輩でこの会の強力な推進役だった。ホテルオークラ神戸も開館時で「メリービックフォード」を、田辺聖子先生は「京マチ子」とか、スターを選んだのはもちろん淀川先生である。四十数個のスターストーンの募金に事務局長の役を引き受けて走り廻ったが楽しかった。

開港一三〇年四月二十九日は天皇誕生日。除幕式は、これまた神戸三中の同窓生・宮崎辰雄市長と淀川先生。チャップリン役の上海太郎がスクリーンでバントマイムを、船が行き交う風景をバックに演じて最高! ブラボー! という気分。私にとっても五十年を記念した行事で、淀川先生に恩返しと思つていたのだが、考えて見ればほんとは私たち神戸っ子に最高の贈りものをして頂いていたのだ。

まだまだ続いた淀川先生の神戸への贈りものは、「兵庫大佛の再建」であった。これ

よみがえれ美しい神戸



大不幸のあとには
見違える神戸が、きつと



淀川 長治
〈映画評論家・東京在住〉

「よみがえる神戸」——この題名で書けと申されたが二日たっても三日たっても書けない。がんばって今に立派に立ち直ってくださいなどしらじらしく書けるわけではない。今はチーンと沈みきったとき、それゆえガンバレの声は必要だろう。けれどガンバレなどかんとんにはそう口からでない。げんに共同通信のいかにも若い記者からこんなひどい映画館があるんですよと報告のファックスも私の手もとに送られてくる。神戸は三〇才までの私の「ふるさと」。私はそのふるさとにどうしてあげようと考えこむ。八十六才では出かけていちいちお見舞いもむりだ。それでいずれ常識だがお見舞金を映画館の団体へお送りして思っている。

た。関東大震災のときは天井からぶらさがっている電気のガラス傘がかすかにかすかにゆれた。するとすぐに号外のすずの音とともに「号外号外」の声がした。その東京が今ここにある。神戸は日本中いちばん個性のある都市だった。この「だった」という過去形はあるわけではない。焼け野原になろうが「神戸」。そこにいる「人」は、神戸気つぶを今もやっぱりに身にしませそれが「神戸の気つぶ」を、今も持っているにちがいない。神戸に日本で初めての活動写真が紹介された。明治二十九年だった。神戸はそのころ世界文化の入口だった。

それは、その気つぶ、その誇りは今もあって、私は神戸生まれ、神戸育ち、これに誰も誇りをもっている。その神戸が焼け野原となつたからとてこの神戸気質までも焼けつくすわけではない。今この目に見る神戸は残酷だ。けれど非情な言い方をして申し訳ないが、こうなつてこうなるという時が神戸ゆえ必ず来るであろう。おどろく日が来るであろう。神戸はその力を持っている。神があるかどうかわからない。けれど、神戸は戦争でつぶされた都市ではない。大自然

も能福寺へお招きして講演をお願いし、また講演料は再建費にいただいた。
兵庫の柳原で生れた先生にとって、能福寺は遊び場だったし、置屋「淀川」のぼんぼんは、おませな美少年で、新開地は映画のふるさとだったのだ。だから日本を代表する映画評論家を育てた、兵庫界隈と兵庫のシンボル大佛つあんへの思い入れは、当然のことだったのかも知れない。

淀川先生は、米神されると須磨寺へお墓詣りに行かれた。今は亡き小池義人管長がニコニコと出迎えられると、「清盛と敦盛みたいでしょ」と美男の管長さんと写真を撮るオチャメぶり。

愛らしかった淀川先生は、イラチだった。スケジュールを次から次へとこなす早さはものすごく、これに続く「イラチ」は妹尾河童さん。神戸二中と三中の神戸への愛着ぶりは大迫力である。

震災後、神戸一〇〇年映画祭に淀川長治映画コレクションを実施した。それにしても、まだまだ一〇〇才まで本誌にエッセイを書いていただけると信じていた。

十一月十二日。姪・淀川美代子さんのご好意で、お通夜と十三日の密葬に東京・千日谷会堂へ、姪の昭子と共に参詣した。

花に囲まれた淀川先生は「よう来たな、よう来たな、よう来たな！」と声が聞こえるようだった。とてもシンプルな清々しいセレモニイで、美代子さんたちの先生への静かな沈黙の愛にふれて、深く感動した。

淀川先生、ありがとうございます。三十七年間お世話になりました。

天国の先生。

さよなら さよなら さよなら!



東京千日谷会堂でのご葬儀 写真提供/女性自身

のなせるわざである。神のなせるわざではあるまいが、大自然のなせるわざ。これは、人の世の常、運命の常。それこそ神の目と神の心で、見ちがえる神戸となつて生まれかわる日が来るのだ。あの神戸と驚く日がこの大自然の大不幸のあとに来る。去年この目で見た広島の立派さ。五年十年それが百年になるであろうとも神戸は日本一、世界注目の、神戸の個性をあふれさせた超大都市になることはまちがいない。

〈95年2・3月号掲載〉



神戸一〇〇年映画祭会場にも追悼の記帳所が

11月4日、神戸空港促進協議会主催で「神戸空港推進大会」が開催された。21世紀の未来の神戸に向けて、各界代表者はメッセージを送った



牧 冬彦氏
(神戸商工会議所会頭)

★関西圏の大空路網の
活性化に神戸空港を

私は、神戸空港があつた方が良いのか、悪いのか、どうやって進めていくのかという問題はすべて終つていくと考えております。神戸空港は、二十一世紀をにらんで、将来の神戸市民に対する一つの義務として、進めていかなければならぬ空港であります。

近隣アジア諸国における大規模国際空港整備の動向を見ますと、二十一世紀はアジアの時代と言われておりますが、日本以外の国のすべてにおいて、将来の大交流時代に備えて、最低でも四〇〇メートル級の滑走路を3本から四本整備するという形のハブ空港の建設が既に決定され、かつ進行中であります。関西圏はアジアに対する一つ

の玄関であります。アジア近隣諸国の空港整備が進行する中で、関西国際空港がやつと二期目の工事に着手できる状態になりました。

また、仁川(韓国)やチャンギ(シンガポール)などのハブ空港を、関西で建設する可能性があるかといえは、その可能性はほとんどないと思ひます。さらに、話は現実的になりますが、この関西の二期工事が出来上つても、おそらくアジアへの玄関口としてすぐにキャパが満杯になるだろうと思ひます。そういう時に我々としては、国際ハブ

空港としての関西の持つ力を一〇〇%あるいは一二〇%發揮させるために、サブとして地方空港としての神戸空港がどうしても必要になるわけであります。それではなければ、とても今日のアジア諸国との大交流時代に備える関西圏としては、対抗できないと思ひます。

関西と、この新しい空港との連絡は、恐らく現状と同様のアクセスを利用するとして十五分、あるいはそれにプラスして数分という形で作り上げることができると思ひます。今考えられているように、大阪湾にトンネルを抜いて関空につなげるならば、恐らく十分程度つながらと思われますから、そういう意味で、一律の関西圏の大空路網として考えることができると思ひます。

いやしくもこの日本は、世界最大の債権国であります。今は景気情勢が極

めて悪く、誠に意気消沈しておりますが、日本経済のポテンシャルが決して無くなつたわけではなく、この経済大国日本、首都圏と並んで関西圏がここで打つて出るために、関西のもつ力ができるだけ効率的に一二〇%、一二〇%、發揮してもらうためには、サブの空港が必要であります。それを神戸空港で受け持てば良いと思ひます。

神戸空港は、名前こそ「神戸」空港となつておりますが、神戸市民のためだけの空港だとは誰も考えておりません。もともと神戸港は一〇〇年前からありますが、誰も神戸市民のための港だと考えたことはありません。これは日本、少なくとも西日本全体の世界に対するハブポートとして今日まで機能してきましたし、これからもそうであります。これは出来上りましたならば、おそらく関西をサポートする最も強力な補佐的な空港となるであろうと思ひます。

私どもは将来の関西圏の大空路網の活性化に神戸空港を大いに役立てていくことができると考えているところであります。先程来から視野を広めて物事を考えて行こうという発言がありましたが、今申し上げましたような見地でもって、この神戸空港に自信を持つて推進に当たろうではありませんか。



山岡幸俊氏
(神戸市長)

神戸空港推進大会より ひらけ未来へ！神戸空港！

★神戸空港は、次世代に引き継ぐ都市装置

神戸の街は、開港より一三〇年、港で大きくなって参りました。時代の変遷もありまして、街そのものが空洞化した。街は時代時代に応じて、よくなったり、悪くなったりすることは当然です。沈んでもいかに浮き沈みを小さくするか、沈んでも立ちあげられるような足腰の強い街をつくる必要があります。そのためにも都市基盤がたくさんありますが、最後に必要になりますのが、空港であり情報通信です。市民生活を豊かにしていく都市施設として、将来、空港をもつことは、どの都市でも、どの地域でも、どの国でも考えることです。

最近では経済状況がよくありませんし、震災によっていろいろな被害を受けました。現在、八割復興といわれていますが、実際には八割も復興していません。当時、国の復興委員会で、この震災復興について、ハードの面、その他について、完全な復興は非常に難しい、という指摘がありました。そのために生活再建を含めて、ハードの面をできるだけ早く回復して、経済活動に支障のないようにすることを目的に設けられたのが、緊急三カ年計画です。その後、緊急五カ年計画を設けましたが、復興状況は実際には八割も戻っていないというのが現状です。

さらに、二十一世紀の将来に向かって、完全復興をめざして打ち出されたのが復興十カ年計画です。上海・長江交易促進プロジェクトなどの特定の事業により、神戸の活性化を目的にした、国が認めた事業です。現在まで計画通り進んでいると考えております。

現在の経済不況を吹き飛ばすには、新しい力が必要です。海外からの支援を得て、新しい産業を興し、次の世代に引き継ぐ、大きな都市基盤をつくる必要があるとあります。かつては市民の皆さまの所得にしましても、全体の約三十八％を港湾関連が占めていました。これが現在、沈滞をしております。いろいろな統計を見ましても、全国で

一、二位であった神戸が、五、六位にまで下がっています。世界的にみましても七、八位にまで下がっています。これは、神戸で港湾関係の仕事に携わっておられた方が、働く場所を失っているとも受け取れます。

神戸は、この数年のうちに、人も産業構造も変化し、都市の構造もそれに対応して変化しなければなりません。街は、観光都市・ファッション都市に変遷してきました。観光には多数の観光施設がございしますが、それらに魅力がなければ、人は来てくれません。「街をつくるに、近き者、喜ばば、遠き者が来たる」という中国の故事があります。つまり、市民が喜ぶような街であれば、人が集まるといふことを言っています。働く場所もなく、魅力もない街には、お越しいただけませんし、都市として衰退していきます。「遠き者がきたる街」として魅力をもつべきです。そのためには、教育関係・文化に含め、利便性の高い都市装置が必要です。

市民の皆様方にも、いまお話ししたことをご理解いただきながら、神戸空港建設を進めてまいりたいと思っております。

ウエルカム二十一世紀 ウエルカムこうべ運動を



小室豊允氏

(姫路獨協大学経済情報学部長)

★都市は空港があつて発展する

私の大好きな都市が世界に四つあります。アメリカのサンフランシスコ、オーストラリアのシドニー、南フランスのニース、そして四つ目は私が生まれ育ちました神戸です。今年の二月はシドニーに行つて参りました。ご承知のように、シドニーは二十世紀最後のオリンピックを準備するために大変活気づいていました。中華料理も神戸と同じように大変おいしい街です。シドニーは神戸によく似ているなど、つくづく感じましたが、ふと気づいたことがあります。ほとんどシドニーにあるものは神戸にある。しかし、神戸にないものが一つある。それは空港です。

もしシドニーに空港がなかったら、オリンピックの会場に選ばれなかったでしょうし、私が滞在することもなかったでしょう。つまり都市というのは、必ず空港があつてはじめて発展するのです。

★東京一極集中を阻止しなければ

アジアにも空港建設の計画が多数あります。二十一世紀はアジア経済の時代とよく言われますが、そのアジア経済の三分の二を占めるのは日本経済です。近年発展がめざましい中国の一人あたりのGDP(国内総生産)は六〇〇ドル。これに対し日本のGDPは今や四〇〇〇ドルになろうとしています。関西のGDPは、カナダ一国に匹敵します。その関西にいったいどれだけの空港があるでしょうか。関空、伊丹の二つという状態です。関西を一つの都市圏と考えた場合、関空の一本の滑走路、伊丹はきわめて、使用が制限されていますので、実際には一本の滑走路とは計算できません。ニューヨークには、国内専用の一つラガーディア空港、近隣諸国を結ぶニューワーク空港、そして最も遠距離を結ぶJ・F・ケネディ空港がございますが、それぞれ役割分担ができています。そういう意味

で関西にはもう一つ二つ空港が必要で、すし、東京一極集中は止まらないでしょう。

★神戸空港は国際線と位置づけたい

二〇年前に神戸沖空港の問題が起きたときに、ボーイング727の騒音問題がとりだたされました。しかし、航空機技術も進み、現在のボーイング726は、離着陸時の騒音発生範囲が、二〇年前の十分の一にまで減少し、発着回数も十分の一になっています。環境被害も当時と比べれば、かなり減少しています。

神戸空港は、国内空港という位置づけですが、二〇〇五年の開港期に、これだけ規制緩和のはげしい中で、国内線、国際線などという規制はなくなるでしょう。我々市民としては、神戸空港は国際空港と位置付けてよからうと考えています。滑走路二五〇〇メートルですと、サンフランシスコまでは飛べるでしょう。最近の若い女性は、金曜日に仕事を終えて飛行機に乗ります。そして、土曜日、日曜日にグラムで、ダイビングやショッピングを楽しみ、月曜日の朝に飛行機で日本へ帰ってくる。これがトレンドイナ若い女性の週末の過ごし方なのだそうす。



神戸空港推進大会特別講演より ひらけ未来へ！神戸空港！

★空港はモノ・情報を運ぶ

空港は旅行目的だけでなくありません。空港のもっと大きな機能が、二つあります。一つは物流です。関空は一年間に五兆円相当もの物流を担っています。例えば、ホテルの料理も、肉や野菜などの食材もほとんどが輸入品です。ポルトアイランド第Ⅱ工区には、ワールドパールセンターが出来ます。神戸空港を利用して世界の真珠業者がやって来て、付加価値の高い取引が行われるでしょう。

もう一つは情報を運ぶことです。私が飛行機を利用して各地へ講演に行きますと、世界の新しい話をします。そうするとそれを聞いた方が、情報を受けとります。私がいちばん聞きたいのは、ヘンリー・キッシンジャーに來てもらって、いったいロシアはどうなるのか、ブレジンスキーに來てもらって、いったいカスピ海の石油はどこが採掘するのか、ということなんです。空港ができればそれが可能です。

★ファッショナブルな空港を

また、空港は都市基盤として重要な要素になっています。ロサンゼルスにデイズニールランドがありますが、子供が相手では金がさが上がりません。そ

れに対して、働き盛り、稼ぎ盛りをターゲットにしているのが、フロリダ半島のデイズニールランドです。そのデイズニールランドが、成功したかといえますと、ファッショナブルで、アミューズメント施設を兼ね備えたオーランド空港ができたからです。またファッショナブルな空港といえは、南フランスのニース空港です。日照時間が長いために、天井がオーブン式になっていて明るく快適です。フランクフルトの空港は、ブランド製品を売っているだけでなく、映画館をはじめ何でもそろっています。世界の一流の空港はアミューズメントセンターとしての機能をもっています。神戸空港も見習うべきでしょう。

★関空と神戸空港と新神戸駅 南北軸の整備を

そして、神戸空港を一つの空港と考えるのではなく、関空とのコネクションを非常に大切にしなければなりません。私は、震災の直後から関空と神戸空港、新神戸駅を結び構想を発表しています。関空は横風が吹けば飛びません。いざというときには、岡山空港へ避難することになっています。それから地下で結んで十五分、関空と神戸空港をつなげばいいのです。シアトル空港やアトランタ空港などでは、第一タ

ーミナルと第二ターミナルをトラムという地下鉄のようもので結ばれています。関空を第一ターミナル、神戸空港を第二ターミナルと考えればいい。関空は滑走路が長いので、長距離を飛ばすには関空から、サイパン、グアムまでなら神戸空港というように、目的地によって使い分けをすればよいのです。それに、震災のときを思い出してください。交通渋滞のためにどれだけ不便を強いられたか、経済損失が大きかったか。東西軸しか整備していないからです。関空、神戸空港、新神戸駅の南北軸が整備されれば、震災のときに大きな助けとなるはずですよ。

かつて、大阪市は築港を当時の予算の四倍をかけてつくりました。それが後に、関西の中心大阪の発展につながりました。二十一世紀のために、神戸空港にも大金をかけてもちつとも惜しくないとは私は考えています。

復旧から復興へ。二十一世紀を迎えるために、今神戸はいろいろな仕掛けをしていかなければなりません。先程のデイズニールランドとオーランド空港の関係からいえば、神戸空港をつくるっておかないとテーマパークはできません。私たち神戸市民が、世界の人たちを受け入れる「ウエルカム二十一世紀、ウエルカムこうべ運動」という住民運動を起こさなくてはなりませんか。

神戸っ子'98

祈りのころを踊る

加藤 きよ子

〈今岡頌子モダンダンスカンパニー
大阪芸術大学舞台芸術学科 非常勤講師〉



博多の町に祭り囃しが聞こえると飛び出していく。踊り好きが、モダンダンスを始めたのは十才のとき。その後、神戸の今岡頌子さんとの出会いにより、日本の古典を素材に激しく燃える「女性の情念」を舞踊で表現するとともに、創作の可能性を追求してきた。

昭和五十九年神戸市文化奨励賞を受賞、その翌年の受賞記念公演直前に日航機事故で友人を失った。同年、身近な先輩二人との別れがあり、これがひとつの転機となった。「生かされて舞踊があ

る」。踊ること、創ることは私の祈りのころを表現すること、と今日まで多くの舞台に对峙してきた。

そういつた中、動かなくなった足の手術直後の大震災、さらに昨年六月の脳動脈瘤の手術という困難に「これから踊れるのか」と不安だったが「気楽に踊ってみたら」という主治医の一言に後押しされ、東京芸術劇場での合同公演に出演。「踊ることができる！」喜びに、たくさんの人たちに支えられていたことを改めて実感した。

十二月十三日、神戸国際会議場メインホールにて、今春逝去された高橋竹山氏、前田哲彦氏（舞台美術・衣裳）をはじめ、親しい人また見知らぬ人々への感謝と祈りを込め、年来の友人である津軽三味線二代目高橋竹山さんと鎮魂歌「鬼さんこちら」を上演する。

「感動する心を忘れず、これからも梓にとらわれないで前向きに挑戦を重ねていきたい」〈宇都宮

今、ふるさと神戸に戻る

山本 郁夫

<指揮者>



長田区で生まれ、中学一年生までを神戸で過ごした。転校先の朝霧中学校は新設校であったため、それまで熱中していたブラスバンド部がなかった。ないのならば創ればいいとばかりに恩師である藤岡先生と共にブラスバンド部を創設、その頃から部長を務めながら指揮者としてもタクトを振り始めていた。

明石高校時代にはオペラへの興味から、松本幸三夫妻に声楽を習い、大学時代には本場イタリアへの留学も経験し、さらに東京芸術大学指揮科で学んだ。

東京で家庭を築き、阪神淡路大震災もテレビで知った。すぐにも神戸に戻りたかったが、やりきれない思いのまま数ヶ月が過ぎた。そんな中で関東に移ってきた被災者がいることを知り、この人たちに何か出来ないかとコンサートを開くことを決意した。大学生の演奏家を募り、協力してくれるボランティアを集めた。その中には見ず知らずの者たちをてきばきとリードしてくれた元婦長さんの姿もあり、「すべては一人ひとりの力が集まってできたもの」。関わってくれた人たち全てに感謝の気持ちでいっぱいだという。

横浜でのコンサートは大雪にも関わらず盛況のうち幕を閉じた。その後大学生たちから神戸で演奏がしたいとの声が上がリ、一九九九年の一月十三日には神戸の文化ホールで「阪神・淡路大震災による被災者のための支援コンサート」を開く予定だ。

「震災でふるさとをもう一度考えることができました。僕にとつてやはり原点は神戸なんです」 <前田>

撮影／米田定蔵

神戸のお嬢さん

〈258〉

愛くるしい笑顔と美声を兼ね備えたお嬢さん
宮本 由佳子さん 〈声楽家〉



撮影/池田年男 メリケンパークにて



推薦者 西垣千賀子

声楽家・97年度神戸文化奨励賞受賞

神戸の山と海の空気に触れ、まぶしいほどの明るさと品格を兼ね備えて育った「お嬢さん」。

それは二十数年間、遠巻きで見守って来られた御両親の愛情のたまものだと思えます。決して過ぎない愛情は、彼女を時には勇敢に、時には愛らしく、行動させる力を養わせたのでしよう。

大阪音楽大学音楽学部声楽科を卒業し、高校教師を経て声楽家の世界に足を踏み入れた彼女は、持ち前の美声と愛くるしい容姿で聴衆を魅了しています。同じソプラノの先輩として、共にいい演奏を重ねてゆきたいと思っています。

神戸のお嬢さん

〈259〉

細やかなやさしさと誰からも愛されるお嬢さん

田中 真理子さん （扶洋エステサロンマドンナチーフカウンセラー）



撮影／米田定蔵 ピアジュリアンにて



推薦者 広畑多佳子

扶洋薬品(株)特約営業所 マドンナ代表

素肌美というものに興味を持たれ、ホームエステの普及というお仕事につかれて約三年。持ち前の明るさと人から信頼され、愛されている彼女も今年で二十五歳。御家族の愛情をいっばいに受けて、成長されたことがうかがえます。

趣味のピアノも先生であるお母様の影響を受け、発表会などで活躍されています。きめ細やかなやさしさと、芯の強さは神戸のお嬢さんらしく、今後の彼女の成長ぶりが本当に楽しみです。